

犬には「ごめん」でも妻には「言わずとも…」

「沽券」捨てれば家族も幸せに！？

男性 300 人に“男のホンネ”調査

「ありがとう」は言えても“ごめん”は言えない」。特定非営利活動法人（NPO 法人）生活企画ジェフリー（東京都西東京市）が行った「男のプライドと家族の幸福度調査」で、そんな男のホンネが明らかになった。

調査は首都圏と関西圏の 20 代から 80 代の男性 314 人から家族観や妻観の回答を得て、東京ウイメンズプラザの助成事業として報告書『男だから呪縛、男だから自由』にまとめた。

それによると、体調不良や病気になったときに 9 割近い男性は妻、子どもら「誰かに伝えている」という。その際、励ましてくれたのは「妻」が一番多かったが、冷たい反応も「妻」が一番だった。

具体的には、「早く治らないと困るわ」と収入ばかりを心配したり、「ふ～ん、あらそう」と無関心だったり。さらに「たいしたことない」と苦痛をおもんばからない無理解な言葉をかけられていた。

「家族にありがとうと言ったことは」を聞いたところ、「いつも言う」「時々言う」を合わせて 9 割強。そのときの家族の反応は「特になし」がトップだったが、「うれしそう」「笑顔が返る」などのプラス反応が次いでいた。

では、うっかりミスするときには謝っているだろうか？ 自分ではささいなミスと書いていても積み積み積もれば夫婦や家族関係に修復できないほどの影をおとすもの。

「悪いと思えばごめんと謝る」は 21.3% で 5 人に 1 人と少ない。「時々ごめんと言う」となれば 72.9% に大幅アップ。一方、「ごめんと言ったことがない」のは 4.5%。謝れない理由はさまざまで「おっくう」「照れくさい」「言葉に出さなくてもわかる」「男のプライド」…。

報告書をまとめた生活企画ジェフリーの渡辺美恵代表（59）は、「男性は自身の非を認めながらない。飼い犬のワンちゃんには『ごめんなさい』と言えても、家族に面と向かっては言えず、感情表現が苦手な人が多い」と分析。「自分の中につくりあげた沽券を捨てれば、家族がもっと幸せになれるのに」と話す。

調査では「男に生まれたことを得と思うかどうか」についても尋ねた。回答をみると「男性優位の社会だから」「社会的制約が少ない」「仕事に専念できる」「好きなことができる」「家事をしなくてもいい」などと“都合の良い”理由を挙げている。

しかし中には「女性差別が強い社会は、男に有利に見えるが、結局は男も追いつめられている」という切実な声もあった。（国保良江）



報告書は A4 判、110 ページで価格 1000 円（送料別）。

申込みは、生活企画ジェフリー＝FAX 042-467-2096 へ